

平成 28 年度第2回神奈川歯科大学神奈川県支部同窓会(本部共催)学術講演会

咬合支持に対応した咬合管理

—臨床人生 52年の経験から—

私は 1964 年に歯科医師免許を取得して以来 52 年に渡り、歯科医療に従事し、「最善の医療」を目指して多くのケースに対応して来た。最善の医療は良質で患者に適した材料と治療方法を行い、それが長期間口腔内で機能する、いわゆる Longevity のある治療法である。今回の講演では長期にわたる歯科臨床で咬合支持の変化に対応して、アイヒナーの咬合支持の分類に基づき

A グループ 有歯顎で臼歯の咬合支持が 4 か所揃っているケース
顎関節症の治療、咬合再構成の長期症例

B グループ 臼歯の咬合支持が 1 か所欠けているものから 1 か所残っているケース、
いわゆるブリッジのケースからパーシャルデンチャーまで コーヌスクローネ、リーゲルテレス
コープやレジリエントテレスコープ等各種のテレスコープシステムを適応した長期症例

C グループ すれ違い咬合、片顎すべてを失い咬合支持がないケース。上下すべての歯がなく、咬合
支持を失ったケース
総義歯に準じた上下の顎位を決定しなければならない多くのケースはレジリエントテレス
コープを応用し、デンチャースペースを確実に再現するために上下顎を同時に印象する
方法を開発し、臨床で良好な結果を得ている。この方法を20年以上に渡り実施している
が義歯の吸着は勿論のこと、顎位の採得方法の改良、難症例への対応等多くの利点を
持っている。

これらの症例に対応して、長期に口腔内で機能して来たケースについて発表する予定です。

(稲葉 繁)

稲葉 繁 先生 略歴

1964 年 日本歯科大学卒業 歯科医師免許取得

1968 年 日本歯科大学大学院修了 歯学博士

1978 年 西ドイツ チュービンゲン大学 留学

1992 年 日本歯科大学高齢者歯科学教授

2005 年 日本歯科大学退職

現在

日本老年歯科医学会名誉会員

社団法人 包括歯科医療研究会代表

カボアカデミー プリンシパル

日本トゥースフレンドリー協会理事



